

2. 社会構造の類型化

- 類型化の観点
 - 単独生活か群れ生活か？
 - 群れ内のオトナ雄とオトナ雌の数がそれぞれ単数か複数か？
 - 群れに継承性があるか否か？
 - 群れが単層か重層か？
 - 凝集性の高い群れか否か（離合集散性が高いか否か）？
- 各類型とそれに属する主要な種（図表 2-1）
 - a) 単独生活
 - ◇ 夜行性原猿類（イタチキツネザル、ネズミキツネザル、アイアイ、ロリスなど）、類人猿ではオランウータン（ただし、スマトラオランウータンはかなり集合性が認められる）
 - ◇ 雄と雌がいっしょにいるのは交尾期のみ（図表 2-2、図表 2-3）
 - b) ペア（一夫一妻・単雄単雌）型
 - ◇ 約 180 種いる霊長類の中で 20 数種（10 数%）のみ
 - ◇ 昼行性原猿類の一部（シファカ、インドリなど）、新世界ザルの一部（ヨザル、サキ、ティティ）、旧世界ザルの数種（ブラザモンキー、メンタウエールトン）、類人猿ではテナガザル（図表 2-4）
 - ◇ 子供は両性とも性成熟以前に集団を離れる。
 - c) 多夫一妻（複雄単雌）型
 - ◇ マーモセット、タマリンなどの小型新世界ザル。
 - d) 一夫多妻（単雄複雌）型
 - ◇ [母系型]旧世界ザルの大半、ヒト（図表 2-12）
 - ◇ [父系的色彩]ゴリラ（基本的に継承性はないが）（図表 2-13）
 - ◇ 交尾期に複雄化するパタスモンキー（図表 2-5）
 - ◇ ゲラダヒヒの母系の重層社会（図表 2-6、図表 2-7、図表 2-8）
 - e) 多夫多妻（複雄複雌）型
 - ◇ [母系型]旧世界ザルのマカク属、ヒヒ属、新世界ザルのオマキザル、リスザル、原猿類のワオキツネザルなど（図表 2-9）
 - ◇ [父系型]新世界ザルのクモザル、ウーリーモンキーなど、類人猿ではチンパンジー属（ただし、いずれも離合集散型）
 - ◇ [双系型]新世界ザルのホエザル、新世界ザルのアカコロブスなど
 - ◇ マントヒヒの父系の重層社会（図表 2-10、図表 2-11）